

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限（1999年9月1日設定）	
運用方針	マザーファンドを通じて、わが国の上場株式等に投資します。マザーファンドは、東証株価指数（TOPIX）をベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざします。ボトムアップによる銘柄選択を行いポートフォリオを構築します。なお、マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。	
主要運用対象	ベビーファンド	日本株式マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。
	マザーファンド	わが国の株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーファンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

三菱UFJ 日本株ファンド

愛称：夢日本

第17期（決算日：2016年7月22日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
 さて、お手持ちの「三菱UFJ 日本株ファンド（愛称：夢日本）」は、去る7月22日に第17期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。
 今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
 URL:<http://www.am.mufug.jp/>

本資料の記載内容に関するお問い合わせ先

お客さま専用フリーダイヤル TEL. 0120-151034
 (9:00~17:00、土・日・祝日・12月31日~1月3日を除く)
 お客さまのお取引内容につきましては、お取り扱いの販売会社にお尋ねください。

◆目次

三菱UFJ 日本株ファンドのご報告

◇最近5期の運用実績	1
◇当期中の基準価額と市況等の推移	2
◇運用経過	3
◇今後の運用方針	7
◇1万口当たりの費用明細	8
◇売買及び取引の状況	8
◇株式売買比率	9
◇利害関係人との取引状況等	9
◇組入資産の明細	10
◇投資信託財産の構成	10
◇資産、負債、元本及び基準価額の状況	11
◇損益の状況	11
◇お知らせ	12

マザーファンドのご報告

◇日本株式マザーファンド	13
--------------	----

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	標準価額			(参考指数)		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
		税込分配	み金騰落	期中率	東証株価指数(TOPIX)	期中率			
	円	円	%		%	%		百万円	
13期(2012年7月23日)	3,935	0	△18.7	720.62	△17.1	97.1	—	1,228	
14期(2013年7月22日)	7,269	0	84.7	1,216.53	68.8	97.6	—	2,004	
15期(2014年7月22日)	7,727	0	6.3	1,273.27	4.7	98.5	—	1,785	
16期(2015年7月22日)	10,014	0	29.6	1,655.37	30.0	97.9	—	1,665	
17期(2016年7月22日)	8,367	0	△16.4	1,327.51	△19.8	98.3	—	1,272	

- (注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。
- (注) 東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- (注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。
- (注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		(参 考 指 数)		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	東 証 株 価 指 数 (TOPIX)	騰 落 率		
(期 首) 2015年 7月22日	円	%		%	%	%
	10,014	—	1,655.37	—	97.9	—
7 月 末	10,054	0.4	1,659.52	0.3	98.3	—
8 月 末	9,228	△ 7.8	1,537.05	△ 7.1	98.0	—
9 月 末	8,663	△13.5	1,411.16	△14.8	97.8	—
10月 末	9,370	△ 6.4	1,558.20	△ 5.9	97.3	—
11月 末	9,648	△ 3.7	1,580.25	△ 4.5	97.9	—
12月 末	9,524	△ 4.9	1,547.30	△ 6.5	97.1	—
2016年 1月 末	8,889	△11.2	1,432.07	△13.5	98.0	—
2 月 末	7,939	△20.7	1,297.85	△21.6	98.1	—
3 月 末	8,618	△13.9	1,347.20	△18.6	96.6	—
4 月 末	8,513	△15.0	1,340.55	△19.0	98.0	—
5 月 末	8,915	△11.0	1,379.80	△16.6	97.2	—
6 月 末	8,096	△19.2	1,245.82	△24.7	98.6	—
(期 末) 2016年 7月22日						
	8,367	△16.4	1,327.51	△19.8	98.3	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

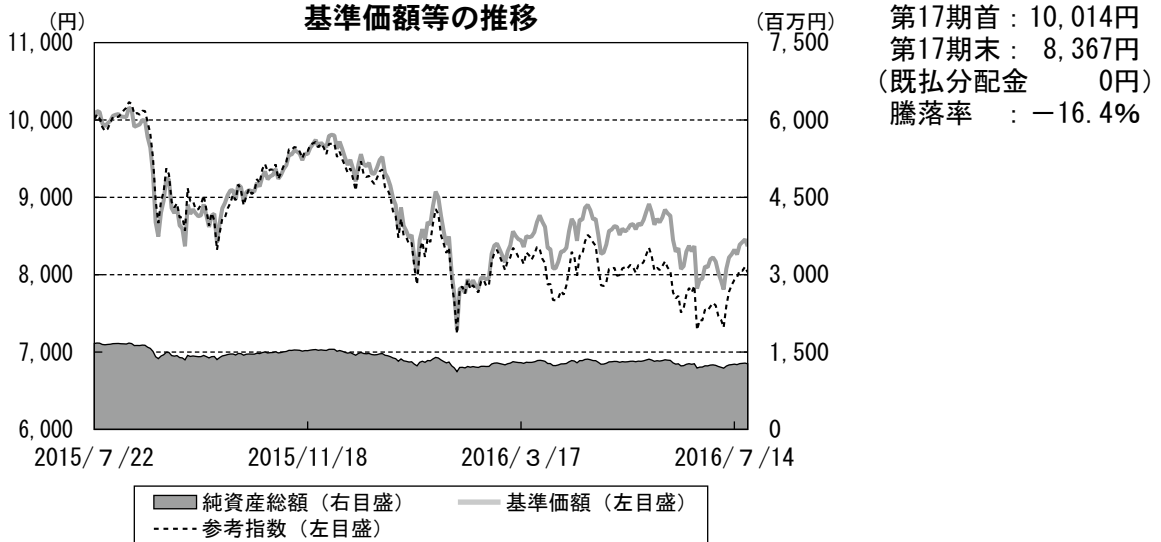
運用経過

当期中の基準価額等の推移について

(第17期：2015/7/23～2016/7/22)

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ16.4%の下落となりました。



基準価額の主な変動要因

下落要因

原油価格の下落や世界経済の減速懸念などリスク回避の動きから国内株式市況が下落したことが基準価額の下落要因となりました。

投資環境について

(第17期：2015/7/23～2016/7/22)

◎国内株式市況

- ・期首から2015年9月下旬にかけては、中国による人民元の対ドル中心レート切り下げが原油価格や新興国通貨の下落へと波及したことなどにより、世界経済の先行き見通しに対する不透明感が高まり、大きく下落しました。
- ・10月上旬から11月末にかけては、ECB（欧州中央銀行）による金融緩和に対する期待が高まるなど先進国の緩和的な金融政策による株式への資金流入期待が強まったことなどを背景に、上昇しました。
- ・12月上旬から2016年2月中旬にかけては、原油価格が下落基調で推移したことなどを受けて新興国を中心に世界経済の減速懸念が強まったことや米国の利上げ時期の先送り観測が広がり外国為替市場で大きく円高・ドル安方向に動いたことなどを背景に、大きく下落しました。
- ・2月下旬から期末にかけては、原油価格の動きが落ち着きを取り戻したことなどが好感される一方、外国為替市場で7月上旬まで円高・ドル安基調が続いたことや英国の国民投票でEU（欧州連合）離脱派が勝利したことなどが嫌気され、一進一退の動きとなりました。

当該投資信託のポートフォリオについて

<三菱UFJ 日本株ファンド>

- ・当ファンドは、日本株式マザーファンド受益証券を通じてわが国の株式に投資しています。株式実質組入比率は、運用の基本方針にしたがい概ね95%程度の高水準を維持しました。

<日本株式マザーファンド>

基準価額は期首に比べ15.1%の下落となりました。

- ・銘柄選択にあたっては、主として企業の利益成長性に着目するとともに、業績動向やバリュエーション（投資価値基準）等の観点で割安と判断した銘柄を中心に投資しました。
- ・組入銘柄数は、概ね90～100銘柄程度で推移させました。主力製品であるシリコンウエハの需要回復を期待した「SUMCO」、業績が改善傾向にあると判断した「NTTドコモ」、電力小売りが全面自由化されるなかで活躍を期待する「イーレックス」などを新規に組み入れました。一方でバリュエーション、業績動向などを勘案し、「三井住友フィナンシャルグループ」、「ユニ・チャーム」などを全株売却しました。期首、期末時点の比較では55銘柄程度を新規に買い付け、55銘柄程度を全株売却しました。

【ベンチマークとの比較】

ファンドの騰落率は、ベンチマーク（東証株価指数（TOPIX））の騰落率（-19.8%）を4.7%上回りました。

- ・当期の運用成果は、全体ではベンチマークを上回りました。業種配分効果については、相対的に下落率が小幅となった情報・通信業や陸運業をベンチマーク比アンダーウェイト（投資比率を基準となる配分比率より少なくすること）としていたことなどが影響しマイナスとなりました。銘柄選択効果はペプチドリームや小野薬品工業などが寄与してプラスとなり、トータルでベンチマークを上回りました。
- ・特に、寄与、影響が大きかった銘柄は以下の通りです。

（プラス要因）

◎銘柄

- ・ペプチドリーム：特殊ペプチドを基盤とする独自創薬技術により新薬候補化合物を生み出す技術力を評価し、期首よりベンチマーク比オーバーウェイト（投資比率を基準となる配分比率より多くすること）としていました。製薬企業との創薬共同研究開発アライアンスパートナー数が着実に増加したこともあり、株価は上昇しプラスに寄与しました。
- ・小野薬品工業：がん治療薬「オプジーボ」の利用患者数や適用拡大などに期待し、期首よりベンチマーク比オーバーウェイトとしていました。「オプジーボ」の貢献による業績改善が株式市場で期待され、プラスに寄与しました。なお、期中に全株売却しました。

（マイナス要因）

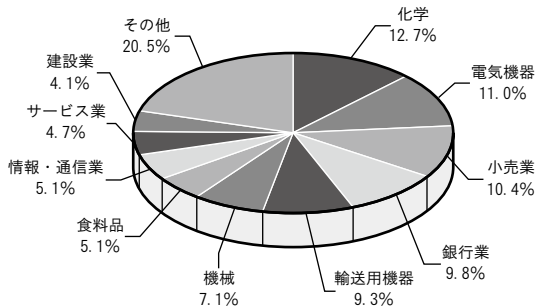
◎銘柄

- ・クルーズ：スマートフォン向け新作ゲームのヒットを期待し、期中に買い付けベンチマーク比オーバーウェイトとしていました。しかし、新作ゲームが伸び悩み、業績回復が先送りとなったことなどから、株価が相対的に軟調に推移しマイナスに影響しました。なお、期中に全株売却しました。

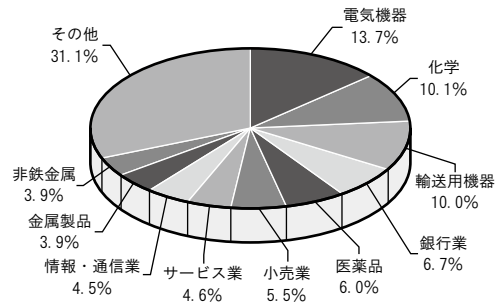
（ご参考）

組入上位10業種

期首（2015年7月22日）



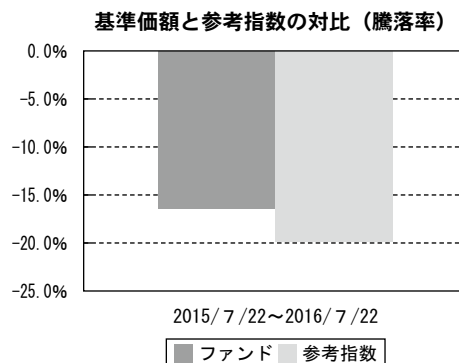
期末（2016年7月22日）



（注）比率は現物株式評価額に対する割合です。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ・当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンド（ベビーファンド）の基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ・参考指数は、東証株価指数（TOPIX）です。



分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】 （単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第17期
	2015年7月23日~2016年7月22日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	982

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

<三菱UFJ 日本株ファンド>

◎今後の運用方針

- ・今後も日本株式マザーファンド受益証券を高位に組み入れる方針です。国内株式の実質組入比率についても、概ね90%以上の水準を維持する方針です。

<日本株式マザーファンド>

◎運用環境の見通し

- ・当面は世界経済の先行き不透明感や、円高による企業業績の下振れリスクなどのマイナス要因から上値の重い展開を想定しています。しかし、日銀の強い金融緩和姿勢には変化がないことや政府の景気回復に向けた各種政策が予想されることなど、政策への期待が株価を下支えすると考えられます。加えて、自社株買いや増配など企業が株主還元を重視する姿勢が明確化していること、業界再編や企業買収などにより企業の収益水準の向上が期待されることなども株式市況のプラス要因になると考えられます。

◎今後の運用方針

- ・株式の組入比率は、引き続き高水準を維持する方針です。
- ・企業の収益性、成長性、安定性などに着目し、ボトム・アップ・アプローチにより、厳選した銘柄への投資を引き続き行います。銘柄選定にあたっては、(1)新しい技術開発、(2)新興国向け事業の競争力、(3)企業買収や事業売却および戦略的投資の動向、などに注目しています。
- ・株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討していく方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2015年7月23日～2016年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 145	% 1.620	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× (期中の日数÷年間日数)
(投 信 会 社)	(68)	(0.756)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(68)	(0.756)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(10)	(0.108)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	43	0.475	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株 式)	(43)	(0.475)	
(c) そ の 他 費 用	0	0.003	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	188	2.098	
期中の平均基準価額は、8,954円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2015年7月23日～2016年7月22日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
日本株式マザーファンド	千口 891	千円 1,986	千口 64,232	千円 158,046

○株式売買比率

(2015年7月23日～2016年7月22日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	日本株式マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	30,298,408千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	6,274,660千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	4.82

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2015年7月23日～2016年7月22日)

利害関係人との取引状況

<三菱UFJ 日本株ファンド>

該当事項はございません。

<日本株式マザーファンド>

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$		うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$	
株式	百万円 4,216	% 27.8		百万円 2,772	% 18.3	

平均保有割合 21.8%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人の発行する有価証券等

<日本株式マザーファンド>

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
株式	百万円 159	百万円 88	百万円 286

利害関係人である金融商品取引業者が主幹事となって発行される有価証券

<日本株式マザーファンド>

種 類	買 付 額
株式	百万円 11

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	6,659千円
うち利害関係人への支払額 (B)	1,504千円
(B) / (A)	22.6%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、アコム、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2016年7月22日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
日本株式マザーファンド	千口 628,255	千口 564,914	千円 1,268,909

マザーファンドの組入資産の明細につきましては、マザーファンド頁をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2016年7月22日現在)

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
日本株式マザーファンド	千円 1,268,909	% 99.0
コール・ローン等、その他	13,463	1.0
投資信託財産総額	1,282,372	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年7月22日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,282,372,568
コール・ローン等	13,441,228
日本株式マザーファンド(評価額)	1,268,909,963
未収入金	21,377
(B) 負債	10,336,625
未払信託報酬	10,318,785
未払利息	15
その他未払費用	17,825
(C) 純資産総額(A-B)	1,272,035,943
元本	1,520,354,866
次期繰越損益金	△ 248,318,923
(D) 受益権総口数	1,520,354,866口
1万口当たり基準価額(C/D)	8,367円

<注記事項>

- ①期首元本額 1,663,535,913円
 期中追加設定元本額 10,691,017円
 期中一部解約元本額 153,872,064円
 また、1口当たり純資産額は、期末0.8367円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は248,318,923円です。

③分配金の計算過程

項 目	2015年7月23日～ 2016年7月22日
費用控除後の配当等収益額	－円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円
収益調整金額	－円
分配準備積立金額	149,389,113円
当ファンドの分配対象収益額	149,389,113円
1万口当たり収益分配対象額	982円
1万口当たり分配金額	－円
収益分配金金額	－円

○損益の状況 (2015年7月23日～2016年7月22日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	1,504
受取利息	3,167
支払利息	△ 1,663
(B) 有価証券売買損益	△226,722,138
売買益	9,523,329
売買損	△236,245,467
(C) 信託報酬等	△ 22,476,604
(D) 当期損益金(A+B+C)	△249,197,238
(E) 前期繰越損益金	106,239,324
(F) 追加信託差損益金	△105,361,009
(配当等相当額)	(△ 4,195,814)
(売買損益相当額)	(△101,165,195)
(G) 計(D+E+F)	△248,318,923
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△248,318,923
追加信託差損益金	△105,361,009
(配当等相当額)	(△ 4,182,605)
(売買損益相当額)	(△101,178,404)
分配準備積立金	149,389,113
繰越損益金	△292,347,027

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<http://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

【お知らせ】

2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。））の税率が適用されます。

日本株式マザーファンド

《第18期》決算日2016年7月22日

[計算期間：2015年7月23日～2016年7月22日]

「日本株式マザーファンド」は、7月22日に第18期の決算を行いました。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第18期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	わが国の株式を主要投資対象とし、ボトムアップ・アプローチによる銘柄選択を行います。銘柄選択の基準として、主として利益成長性に着目します。業種配分は、東証株価指数(TOPIX)の業種比率を参考にしますが、各業種の予想利益成長率等を勘案して決定します。株式組入比率は高位を維持することを基本とします。TOPIXをベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。
主 要 運 用 対 象	わが国の株式を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		東 証 株 価 指 数 (TOPIX)		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
	円	期 騰 落 中 率 %	(TOPIX)	期 騰 落 中 率 %			
14期(2012年7月23日)	9,902	△17.5	720.62	△17.1	97.4	—	百万円 9,317
15期(2013年7月22日)	18,601	87.9	1,216.53	68.8	97.8	—	10,633
16期(2014年7月22日)	20,076	7.9	1,273.27	4.7	98.7	—	8,311
17期(2015年7月22日)	26,454	31.8	1,655.37	30.0	98.1	—	7,132
18期(2016年7月22日)	22,462	△15.1	1,327.51	△19.8	98.6	—	6,016

(注) 東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値及びそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		東 証 株 価 指 数 (TOPIX)		株 組 入 比 率 %	株 先 物 比 率 %
	円	騰 落 率 %	(TOPIX)	騰 落 率 %		
(期 首) 2015年7月22日	26,454	—	1,655.37	—	98.1	—
7 月 末	26,569	0.4	1,659.52	0.3	98.5	—
8 月 末	24,422	△ 7.7	1,537.05	△ 7.1	98.3	—
9 月 末	22,954	△13.2	1,411.16	△14.8	98.0	—
10 月 末	24,865	△ 6.0	1,558.20	△ 5.9	97.5	—
11 月 末	25,641	△ 3.1	1,580.25	△ 4.5	98.1	—
12 月 末	25,348	△ 4.2	1,547.30	△ 6.5	97.3	—
2016年1 月 末	23,686	△10.5	1,432.07	△13.5	98.3	—
2 月 末	21,175	△20.0	1,297.85	△21.6	98.3	—
3 月 末	23,024	△13.0	1,347.20	△18.6	96.8	—
4 月 末	22,771	△13.9	1,340.55	△19.0	98.3	—
5 月 末	23,883	△ 9.7	1,379.80	△16.6	97.4	—
6 月 末	21,712	△17.9	1,245.82	△24.7	98.9	—
(期 末) 2016年7月22日	22,462	△15.1	1,327.51	△19.8	98.6	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

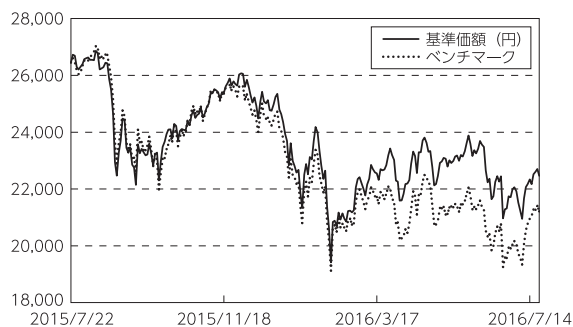
◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ15.1%の下落となりました。

◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(−19.8%)を4.7%上回りました。

基準価額の推移



(注) ベンチマークは期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●投資環境について

◎国内株式市況

- ・期首から2015年9月下旬にかけては、中国による人民元対ドル中心レート切り下げが原油価格や新興国通貨の下落へと波及したことなどにより、世界経済の先行き見通しに対する不透明感が高まり、大きく下落しました。
- ・10月上旬から11月末にかけては、ECB（欧州中央銀行）による金融緩和に対する期待が高まるなど先進国の緩和的な金融政策による株式への資金流入期待が強まったことなどを背景に、上昇しました。
- ・12月上旬から2016年2月中旬にかけては、原油価格が下落基調で推移したことを受けて新興国を中心に世界経済の減速懸念が強まったことや米国の利上げ時期の先送り観測が広がり外国為替市場で大きく円高・ドル安方向に動いたことなどを背景に、大きく下落しました。
- ・2月下旬から期末にかけては、原油価格の動きが落ち着きを取り戻したことなどが好感される一方、外国為替市場で7月上旬まで円高・ドル安基調が続いたことや英国の国民投票でEU（欧州連合）離脱派が勝利したことなどが嫌気され、一進一退の動きとなりました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・銘柄選択にあたっては、主として企業の利益成長性に注目するとともに、業績動向やバリュエーション（投資価値基準）等の観点で割安と判断した銘柄を中心に投資しました。
- ・組入銘柄数は、概ね90～100銘柄程度で推移させました。主力製品であるシリコンウエハの需要回復を期待したSUMCO、業績が改善傾向にあると判断したNTTドコモ、電力小売りが全面自由化されるなかで活躍を期待するイーレックスなどを新規に組み入れました。一方でバリュエーション、業績動向などを勘案し、三井住友フィナンシャルグループ、ユニ・チャームなどを全株売却しました。期首、期末時点の比較では55銘柄程度を新規に買い付け、55銘柄程度を全株売却しました。

●当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ・当期の運用成果は、全体ではベンチマークを上回りました。業種配分効果については、相対的に下落率が小幅となった情報・通信業や陸運業をベンチマーク比アンダーウェイト（投資比率を基準となる配分比率より少なくすること）としていたことなどが影響しマイナスとなりました。銘柄選択効果はペプチドリームや小野薬品工業などが寄与してプラスとなり、トータルでベンチマークを上回りました。
- ・特に、寄与、影響が大きかった銘柄は以下の通りです。

（プラス要因）

◎銘柄

- ・ペプチドリーム：特殊ペプチドを基盤とする独自創薬技術により新薬候補化合物を生み出す技術力を評価し、期首よりベンチマーク比オーバーウェイト（投資比率を基準となる配分比率より多くすること）としていました。製薬企業との創薬共同研究開発アライアンスパートナー数が着実に増加したこともあり、株価は上昇しプラスに寄与しました。
- ・小野薬品工業：がん治療薬「オプジーボ」の利用患者数や適用拡大などに期待し、期首よりベンチマーク比オーバーウェイトとしていました。「オプジーボ」の貢献による業績改善が株式市場で期待され、プラスに寄与しました。なお、期中に全株売却しました。

（マイナス要因）

◎銘柄

- ・クルーズ：スマートフォン向け新作ゲームのヒットを期待し、期中に買い付けベンチマーク比オーバーウェイトとしていました。しかし、新作ゲームが伸び悩み、業績回復が先送りとなったことなどから、株価が相対的に軟調に推移しマイナスに影響しました。なお、期中に全株売却しました。

○今後の運用方針

◎運用環境の見通し

- ・当面は世界経済の先行き不透明感や、円高による企業業績の下振れリスクなどのマイナス要因から上値の重い展開を想定しています。しかし、日銀の強い金融緩和姿勢には変化がないことや政府の景気回復に向けた各種政策が予想されることなど、政策への期待が株価を下支えすると考えられます。加えて、自社株買いや増配など企業が株主還元を重視する姿勢が明確化していること、業界再編や企業買収などにより企業の収益水準の向上が期待されることなども株式市場のプラス要因になると考えられます。

◎今後の運用方針

- ・株式の組入比率は、引き続き高水準を維持する方針です。
- ・企業の収益性、成長性、安定性などに着目し、ボトム・アップ・アプローチにより、厳選した銘柄への投資を引き続き行います。銘柄選定にあたっては、(1)新しい技術開発、(2)新興国向け事業の競争力、(3)企業買収や事業売却および戦略的投資の動向、などに注目しています。
- ・株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討していく方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2015年7月23日～2016年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 114 (114)	% 0.478 (0.478)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(b) そ の 他 費 用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	114	0.478	
期中の平均基準価額は、23,837円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2015年7月23日～2016年7月22日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国	上場	千株	千円	千株	千円
内		11,246 (123)	15,165,588 (-)	11,430	15,132,819

(注) 金額は受渡代金。

(注) ()内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2015年7月23日～2016年7月22日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	30,298,408千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	6,274,660千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	4.82

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2015年7月23日～2016年7月22日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	15,165	4,216	27.8%	15,132	2,772	18.3%

利害関係人の発行する有価証券等

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
株式	百万円 159	百万円 88	百万円 286

利害関係人である金融商品取引業者が主幹事となって発行される有価証券

種 類	買 付 額
株式	百万円 11

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	30,603千円
うち利害関係人への支払額 (B)	6,888千円
(B) / (A)	22.5%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、アコム、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2016年7月22日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
建設業 (3.2%)				
大林組	106	86.1	95,571	
清水建設	71	—	—	
熊谷組	205	174	56,550	
五洋建設	—	68.2	40,783	
大和ハウス工業	12.7	—	—	
食料品 (2.7%)				
森永製菓	—	119	81,515	
江崎グリコ	12	—	—	
明治ホールディングス	4.3	6.4	68,288	
ブリマハム	253	—	—	
アリアケジャパン	22	1.4	7,966	
繊維製品 (0.9%)				
東レ	—	61	56,290	
ワコールホールディングス	24	—	—	
化学 (10.1%)				
昭和電工	411	—	—	
住友化学	139	—	—	
東ソー	184	184	94,024	
三井化学	—	185	74,740	
東京応化工業	20.3	31.6	91,924	
花王	—	4.4	26,171	
日本ペイントホールディングス	—	25.8	74,974	
資生堂	—	34.3	99,521	
ライオン	71	—	—	
ファンケル	61.3	—	—	
コーセー	6.5	—	—	
ポーラ・オルビスホールディングス	11.7	7.1	73,059	
新田ゼラチン	20	—	—	
ニフコ	—	11.1	63,936	
ユニ・チャーム	53	—	—	
医薬品 (6.0%)				
協和発酵キリン	—	32	60,896	
塩野義製薬	7.4	—	—	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
日本新薬	10	10.9	61,367	
中外製薬	—	17.1	66,690	
小野薬品工業	5.2	—	—	
JCRファーマ	—	10	30,250	
ソーせいグループ	—	2.1	34,356	
パプチドリーム	30.8	18.3	103,029	
ガラス・土石製品 (1.0%)				
太平洋セメント	182	—	—	
ジオスター	55	—	—	
フジインコーポレーテッド	—	34.7	58,365	
鉄鋼 (1.0%)				
日新製鋼	—	45.3	62,061	
東京製鐵	78.5	—	—	
非鉄金属 (3.9%)				
住友金属鉱山	—	79	97,209	
東邦チタニウム	36.4	—	—	
UACJ	—	382	101,994	
古河電気工業	—	114	30,666	
金属製品 (3.9%)				
SUMCO	—	251.7	172,414	
川田テクノロジーズ	3.3	—	—	
三益半導体工業	—	63.2	58,712	
機械 (3.9%)				
オークマ	51	—	—	
牧野フライス製作所	27	—	—	
オーエスジー	13.6	—	—	
ナブテスコ	—	16.4	44,116	
SMC	2	—	—	
TOWA	—	46.2	55,717	
アイチ コーポレーション	41.2	—	—	
荏原製作所	—	105	60,060	
ダイキン工業	—	5.5	50,897	
TPR	15.2	—	—	
ホシザキ	—	2	18,940	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
日本精工	42.9	—	—	—
三菱重工業	190	—	—	—
電気機器 (13.7%)				
三菱電機	17	76	99,560	
日本電産	14.2	3.4	29,104	
ダブル・スコープ	—	24.8	55,998	
オムロン	—	16	58,720	
ソニー	15	40.8	130,396	
TDK	9	—	—	
アルプス電気	24	29.3	59,127	
日本航空電子工業	14	—	—	
キーエンス	0.6	1.3	92,781	
シスメックス	—	8.1	60,183	
ローム	6.8	—	—	
村田製作所	5.8	3.8	47,443	
小糸製作所	15.5	12.5	60,875	
SCREENホールディングス	—	35	44,030	
東京エレクトロン	8.3	8.1	74,479	
輸送用機器 (10.0%)				
トヨタ紡織	—	43.3	93,787	
日産自動車	76.6	122.5	124,888	
いすゞ自動車	43.4	—	—	
トヨタ自動車	29.8	17	99,246	
カルソニックカンセイ	39	—	—	
アイシン精機	6.7	29.1	123,675	
富士重工業	18.3	37.5	149,400	
ヤマハ発動機	33.5	—	—	
精密機器 (3.7%)				
ブイ・テクノロジー	—	1.1	15,312	
トプコン	—	59.8	62,550	
朝日インテック	—	11.3	50,963	
CYBERDYNE	—	14.2	27,690	
メニコン	—	20	62,800	
その他製品 (1.4%)				
大日本印刷	—	36	43,848	
ビジョン	—	4.1	10,733	
任天堂	—	1.1	31,042	
電気・ガス業 (2.0%)				
イーレックス	—	42.7	117,553	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
陸運業 (1.8%)				
相鉄ホールディングス	61	—	—	—
東日本旅客鉄道	9.1	—	—	—
東海旅客鉄道	—	2.1	40,309	
名古屋鉄道	—	111	64,380	
空運業 (0.3%)				
日本航空	—	6	19,926	
情報・通信業 (4.5%)				
アイスタイル	26.8	32	28,928	
GMOペイメントゲートウェイ	—	5.7	31,863	
大塚商会	12.3	—	—	
日本テレビホールディングス	31.2	—	—	
KDDI	25.2	—	—	
NTTドコモ	—	51	147,237	
スクウェア・エニックス・ホールディングス	32.4	18.5	59,940	
卸売業 (1.4%)				
IDOM	80.9	—	—	
シークス	11.5	—	—	
伊藤忠商事	—	15.1	19,607	
三菱商事	35	31.8	60,881	
小売業 (5.5%)				
アスクル	—	15.4	55,671	
スタートトゥデイ	30	18.7	93,687	
三越伊勢丹ホールディングス	31.5	—	—	
ゴルフダイジェスト・オンライン	60	—	—	
トリドール	—	12.6	37,346	
クスリのアオキ	8.8	—	—	
良品計画	3.7	1.1	25,124	
ドンキホーテホールディングス	8.4	—	—	
サイゼリヤ	14.6	—	—	
ラオックス	140	—	—	
ケーズホールディングス	9.9	—	—	
ニトリホールディングス	6.7	5.3	66,409	
ファーストリテイリング	0.7	1.4	45,696	
銀行業 (6.7%)				
新生銀行	—	360	55,800	
三菱UFJフィナンシャル・グループ	333.9	465.9	239,891	
三井住友フィナンシャルグループ	38.5	—	—	
スルガ銀行	27.1	26.9	63,188	

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
セブン銀行	—	107.2	36,876
みずほフィナンシャルグループ	397.3	—	—
証券、商品先物取引業 (1.1%)			
SBIホールディングス	—	56.9	63,102
丸三証券	28.4	—	—
保険業 (3.2%)			
アニコムホールディングス	—	21.5	57,663
第一生命保険	58.6	55	68,557
東京海上ホールディングス	15.1	15.9	62,057
その他金融業 (1.7%)			
アコム	93	91.6	46,166
オリックス	—	38.4	56,313
不動産業 (1.8%)			
パーク24	—	14	48,300
三井不動産	26	10	23,540

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
東京建物	12.8	27.7	36,148
日本空港ビルデング	13.9	—	—
サービス業 (4.6%)			
クックパッド	22.3	—	—
エムスリー	—	18.8	70,218
アウトソーシング	—	20.3	75,516
リゾートトラスト	11.8	19.6	45,354
ビー・エム・エル	—	5.9	29,559
楽天	25.4	—	—
共立メンテナンス	9.4	7.2	54,648
乃村工藝社	42.6	—	—
丹青社	32.6	—	—
合 計	株数・金額	4,685	4,624
	銘柄数<比率>	92	92

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
(注) 評価額欄の<>内は、純資産総額に対する評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2016年7月22日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	5,929,151	95.8
コール・ローン等、その他	259,978	4.2
投資信託財産総額	6,189,129	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年7月22日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	6,189,129,112
コール・ローン等	85,646,642
株式(評価額)	5,929,151,360
未収入金	169,107,757
未収配当金	5,223,353
(B) 負債	173,060,104
未払金	164,506,188
未払解約金	8,553,819
未払利息	97
(C) 純資産総額(A-B)	6,016,069,008
元本	2,678,342,932
次期繰越損益金	3,337,726,076
(D) 受益権総口数	2,678,342,932口
1万口当たり基準価額(C/D)	22,462円

<注記事項>

- ①期首元本額 2,696,261,650円
 期中追加設定元本額 740,668,312円
 期中一部解約元本額 758,587,030円
 また、1口当たり純資産額は、期末2,2462円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

三菱UFJ 積立ファンド(日本バランス型)	782,356,665円
三菱UFJ グローバルバランス(積極型)	184,184,605円
三菱UFJ グローバルバランス(安定型)	156,760,440円
三菱UFJ グローバルバランスVA	59,165,820円
三菱UFJ 日本株ファンド	564,914,061円
三菱UFJ 日本バランス20	30,140,119円
三菱UFJ 日本バランス50	93,187,978円
三菱UFJ 国内株式ファンド	93,599,818円
三菱UFJ 国内バランス20	345,775,855円
三菱UFJ 国内バランス50	174,314,475円
三菱UFJ <DC>グローバルバランス 20型	22,606,123円
三菱UFJ <DC>グローバルバランス 40型	65,236,471円
三菱UFJ <DC>グローバルバランス 60型	106,100,502円
合計	2,678,342,932円

【お知らせ】

信用リスクを適正に管理する方法を新たに定めるため(分散型に分類)、信用リスク集中回避のための投資制限の追加およびこれに伴う投資制限の記載の変更を行うための、所要の約款変更を行いました。
 (2016年7月1日)

○損益の状況 (2015年7月23日～2016年7月22日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	101,776,171
受取配当金	101,739,508
受取利息	51,357
その他収益金	2,393
支払利息	△ 17,087
(B) 有価証券売買損益	△1,104,326,397
売買益	822,809,327
売買損	△1,927,135,724
(C) 保管費用等	△ 99
(D) 当期損益金(A+B+C)	△1,002,550,325
(E) 前期繰越損益金	4,436,523,583
(F) 追加信託差損益金	950,524,816
(G) 解約差損益金	△1,046,771,998
(H) 計(D+E+F+G)	3,337,726,076
次期繰越損益金(H)	3,337,726,076

- (注) (B) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (G) 解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。